

カンボジア・ネパール教育支援プロジェクト 活動報告

Oct. 2008

IVUSA では、途上国の児童教育支援を目的に、「カンボジア・ネパール教育支援プロジェクト」へのご協力を呼びかけています。その結果、下記のとおり多くの方々にご賛同いただき、2008年10月、カンボジアに1校目の小学校を開設することが出来ました。

2007年10月から2008年9月までにご協力を頂いた「カンボジア小学校建設募金」を対象に、集計金額と用途のご報告をさせていただきます。

ご協力、有難うございました。

募金実績

募金件数 78件

募金総額 4,002,054円

対象期間 2007年10月～2008年9月

送金報告 (KHJ. Co.,Ltd へ送金)

第1回送金 2008年4月23日 2,075,997円

第2回送金 2008年7月7日 1,256,850円

第3回送金 2008年9月11日 865,909円

合計 4,198,756円

(建設資金に対する募金額の不足分は、IVUSAが補填し、寄付しました)

カンボジア王国

世界文化遺産に登録されているアンコールの巨大遺跡群が有名なカンボジア王国。ポルポト政権下の恐慌政治により、学校など社会資本の破壊、知識階級の虐殺が行なわれ、教育基盤は崩壊しました。

また、小学校の卒業率は45%、中学校の就学率は16.6%、高校の就学率も7.7%と低い水準です。全国の小・中学校(都市部では58%)のうち、47%が午前/午後の二部制、三部制の授業実施を強いられています(2007年現在)。

教室数の不足と校舎の老朽化も進んでおり、雨が降ると雨漏りがひどくて休校になる学校。崩れる天井を支えるため、教室の真ん中に木の柱を立てて倒壊を防いでいる学校。内戦時代にアメリカの空爆を受けた校舎を修理して使っている学校。また、空爆の振動により壁にひびが入り、そこから水が侵食しコンクリートや鉄筋を腐らせた、倒壊寸前の学校。また、どくろマークが付いた紐で囲まれた地雷源と隣り合わせの学校もあります。

今回は、村人たちがお金を出し合って新校舎建設のための土地を用意した、コンボンチャム州プレイクイ村に小学校を建設することになりました。

支援前の状況

コンボンチャム州プレイクイ村は、カンボジアの首都であるプノンペンから車で3時間ほどの場所に位置しています。州の中心部からは車で40分ほどですが、ガス・電気・水道のない村です。161世帯、約700名の村人が暮らしていますが、急激な人口の増加により、そのうち約550名が15歳までの子どもで占められています。

村の就学率は約60%。そのうち、5年生に進級するのは約20%です。村に一つある小学校には教室数2つ、教師は3名に対し、3年生までの児童が164名通っています。



プレイクイ小学校旧校舎

3年生以上の児童140名は、教室が狭いために隣町の学校まで歩いて通っています。その影響に加え、児童労働も影響して、小学校卒業前に辞めてしまう子どもがほとんどです。

支援内容

本事業では、学びたくても学べない子どもたちに対し、基本的な教育を受ける環境を作ることを目指しました。そのため、村民たちが購入した新校舎建設のための土地に5教室の小学校を建設し、文具や楽器、運動用具等を寄贈しました。また、建設に際しては村民や学校に通う子どもたちが積極的に協力した他、日本からも大学生45名が建設の手伝いに現地に行きました。この活動により、村の子どもたち約300名が新校舎に通うことができるようになり、教育を受ける機会を拡大する為の重要な活動となりました。尚、教師の給料は州政府より支給されています。



プレイクイ小学校新校舎